

20

地域と連携・協働した
教育の推進

現状と課題

- 本市では、地域の住民の参画を得て取り組む「学校応援団」の活動を推進し、学校・家庭・地域が一体となって、子供たちの育成を図ってきました。
- この活動を基礎に、学校と保護者や地域、企業や団体などとの関係を、連携・協働という双方向の関係に発展させ、地域全体で子供たちの学びや育ちを支えることが必要となります。
- 本市では、平成31(2019)年度に、市内全小・中学校が、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとなりました。今後は、学校と保護者や地域住民等と教育目標を共有するなど、学習指導要領に掲げられている「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進が求められています。
- 現在、市内小・中学校のPTAは活動が縮小の傾向にあり、今後の子供たちへの教育活動の支援や、家庭教育の在り方について、検討の必要があります。
- 家庭・地域の教育力の低下が指摘される中、学校・家庭・地域・関係機関が力を合わせて教育に取り組む必要があります。
- 家庭学習が困難であったり、学習習慣が十分身に付いていなかったりする子供たちの学習について、地域住民などによる多様な視点からの支援が必要です。

主な取組

▶コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的取組の推進

- ① 学校・家庭・地域が、育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する「地域とともにある学校づくり」を推進し、その充実を図ります。
- ② 学校と地域が一体となってより良い学校運営を実現するための、コミュニティ・スクールの在り方について理解を深めるとともに、学校運営協議会の進め方や熟議の仕方などの技能の向上を図るため、各学校の教職員や学校運営協議会委員を対象とした上尾市コミュニティ・スクール研修会を開催します。
- ③ 市内のコミュニティ・スクールに関する取組や研修会等で協議された内容について、各学校や上尾市教育委員会のホームページ等で発信することで、優れた実践や取組を広めます。
- ④ 学習支援、環境整備、安心・安全の確保などの学校応援団による地域学校協働活動を支援し、学校応援団活動の活性化と家庭・地域の教育力の向上を図ります。
- ⑤ 幅広い地域住民の参画により子供たちの成長を支えていくため、学校と地域が相互にパートナーとして活動を行う地域学校協働活動の普及啓発を行います。

▶学校・家庭・地域・関係機関の連携推進

- ① 学校・家庭・地域・関係機関が連携し、青少年健全育成活動の促進や学習支援、部活動の指導など様々な活動を推進します。
- ② 児童生徒ボランティア活動の充実を図り、積極的に地域と関わるなど、持続可能な地域人材の育成に努めます。
- ③ 地域の人的・物的資源を活用した学びの充実を図ります。
- ④ 「放課後子ども教室」を実施し、子供たちの安心・安全な活動場所を確保するとともに、地域住民等の参画を得て、学習や体験・交流活動の機会を提供し、子供たちの豊かな人間性を養うとともに、地域社会全体の教育力の向上を図ります。



(写真1・2) 放課後子ども教室

21 家庭教育の充実



現状と課題

- 子供を育てることは、未来の日本を支える人材を育てる重要な営みであり、家庭教育はすべての教育の出発点です。保護者は子供に必要な習慣を身に付けさせるとともに、自主性を育成し、心身の調和のとれた発達ができるよう努めなければなりません。このため、保護者に家庭教育の必要性を周知し、より魅力ある事業展開を図る必要があります。
- 家庭教育については、保護者の学習活動が活発になるよう、支援が必要です。

主な取組

▶家庭教育推進活動の実施

- ① すべての教育の出発点である家庭教育を支援するため、保護者会などの協力により、子育て中の保護者のニーズに応えられるような実践的な家庭学習の機会を提供します。

▶親の学習の推進

- ① 幼稚園・保育園の保護者会等が独自に企画・実施する講演会や講座等に対し、側面的な支援を行います。

22

部活動の地域展開の推進



現状と課題

- 生徒数の減少により、地域によっては、従来どおりの部活動の維持が困難となっています。また、生徒の多様なニーズに応え得る種目の部活動の設置ができなくなっています。
- 教員の働き方改革を推進しなければならない中、授業及び校務と部活動指導の両立が難しくなっています。また、当該種目の経験に関わらず部活動指導を行っている教員も多数います。
- 生徒が自己のニーズに応じて、専門性の高い指導者から、質の高い指導を受けられる環境を整える必要があります。

主な取組

▶ 新たな地域クラブ活動「AGEO 地域クラブ」の発足・充実

- ① 現存の学校部活動の種目に限らず、生徒の多様なニーズに応じた、「多種目」「多志向」「インクルーシブ」な環境を整えます。
- ② 生徒が安心して、安全に活動することができる管理運営体制の下、指導者や運営スタッフ、指導の質を確保する取組を進めます。
- ③ 参加生徒等の負担に配慮し、誰もが参加しやすいクラブ運営を行います。

▶ 「平日」の部活動の地域展開に係る検討の実施

- ① 休日に続き、平日の部活動の地域展開に係る検討を行います。
- ② アップー部活動コーチ・サポーター等の経験者に加え、新たな地域指導者を発掘するなど、平日の地域クラブ活動の指導者を確保するための取組を推進します。

目標7 家庭・地域の教育力の向上 に対する指標

※現状値は令和6(2024)年時点、目標値は令和12(2030)年時点です。

指標		各学校の学校応援団の活用率	
指標の定義	年間の各学校で登録されている学校応援団の活用率。		
選定理由	学校応援団の活用率は、学校応援団活動の活性化と家庭・地域の教育力の向上を示すものであるため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
小・中学校	100%	100% を維持	現状の活用率を継続・維持することが、学校応援団活動の活性化と家庭・地域の教育力の向上に重要であるため目標値として設定。

指標		「AGEO 地域クラブ」参加児童生徒の満足度	
指標の定義	「AGEO 地域クラブ」に参加する児童生徒に対するアンケート調査における満足度(毎年度末に実施)		
選定理由	「AGEO 地域クラブ」が参加児童生徒のニーズに即したものになっているかを把握するため。		
	現状値	目標値	目標値の根拠
中学校	97%	97% を維持	令和6年度、新たな地域クラブ活動「AGEO 地域クラブ」実証事業終了時に実施したアンケート調査の結果を使用。今後、種目数や拠点数が増えた場合においても、同じ数値を獲得できるようにすることを目指して目標値を設定。



(写真1・2)AGEO地域クラブ:バレーボール・ソフトテニス